

CLOSE UP!



局所麻酔で可能な高齢者腰痛症の内視鏡手術～痛みを我慢する時代ではありません～

● 高齢者の腰痛症

高齢者に腰痛があるのは当たり前、そのようにお考えの方は多くいらっしゃるでしょう。ですが、医学的な見地からすると、腰痛にはちゃんとした原因があります。特に多く見られるのは「骨粗鬆症」です。この病気により引き起こされるもののひとつに「いつのまにか骨折」があります。治療は薬による内科的治療が中心となります。そして、骨粗鬆症に次いで多い原因として「腰部脊柱管狭窄症」と「ヘルニア」があげられます。このふたつの疾患は、痛み止めが効きにくく、重症化する場合もあるため、日常生活を送ることが困難になる方もいらっしゃいます。痛みを取り除くためには、外科的治療が必要となります。一般的に行われている全身麻酔による手術は、心臓や肺に負担がかかるため、高齢の患者さんや他の持病がある患者さんは受けることができない場合があります。また、認知症の進行に影響することもあります。



骨粗鬆症

原因

骨密度が低下することにより、骨が脆くなる病気です。本人も気付かないうちに骨折していることなどもあり、老人性円背(腰が曲がっている状態)の原因になります。加齢や生活習慣病などが原因で引き起こされます。

治療

薬剤を服用することにより内服治療が中心となります。また、運動不足の解消や食事の見直しなど、生活習慣の改善も重要です。

脊柱管狭窄症

原因

脊骨の一部である脊柱管が、脊髄神経を圧迫することによって痛みやしびれを引き起こす病気です。腰痛だけでなく、足にまでしびれが及ぶ場合もあります。また、排尿障害の原因にもなります。

治療

リハビリテーションや内服による保存療法が一般的です。一定期間に改善が見られず、生活に支障が出るような重傷の場合に手術といった外科的治療が選択されます。

ヘルニア

原因

ヘルニアとは、臓器や人体組織の一部が組織の隙間からみ出ることにより、さまざまな症状を引き起こす病気の総称です。腰部の痛みを伴うものは腰椎椎間板ヘルニアといい、髓核というゲル状の組織が椎間板の外にはみ出してしまいます。腰や下肢に痛み・しびれが起こります。

治療

脊柱管狭窄症と同じく、保存療法が一般的です。排尿障害や歩行困難などの重篤な場合に外科的治療が選択されます。

徳島大学病院整形外科の西良教授が開発した術式である「局所麻酔による腰部脊柱管狭窄症の内視鏡手術」についてご紹介します。日本で唯一、徳島大学病院でのみ受けとることのできる画期的な手術法です。



■説明は、
徳島大学病院 整形外科
診療科長・教授
西良 浩一(さいりょう・こういち)
【お問い合わせは】
TEL.088-633-7237(整形外科外来)
※受診には紹介状と予約が必ず必要です。

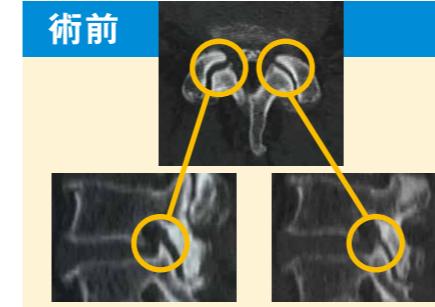
● 局所麻酔で可能な内視鏡手術とは

日本で唯一、徳島大学病院でのみ実施している手術があります。それは、腰部脊柱管狭窄症を対象とした局所麻酔による内視鏡手術(PEVF:Percutaneous Endoscopic Ventral Facetectomy)です。PED法というヘルニア手術に用いられる方法にヒントを得て、当院整形外科の西良浩一教授が開発しました。8mm内視鏡を使用し、手術にかかる時間は約70分程度です。局所麻酔によるものですから、手術中も意識があり、会話することができます。内視鏡を挿入するために8mm程度の切開を伴いますが、背中の筋肉を切開して行う切開手術に比べれば、身体的な負担は格段に小さいものです。手術後、その日のうちに自分で歩いてトイレに行くこともできます。このように身体への負担が少ない手術であるため、全身麻酔による手術が困難な事情を抱えた患者さんにも、腰痛の根治を目的とした治療が行えるのです。当院でこの手術を受けられる患者さんの平均年齢は72才となっており、他の難病を抱える高齢患者さんの手術も安全に行われました。

患者さんへ一言

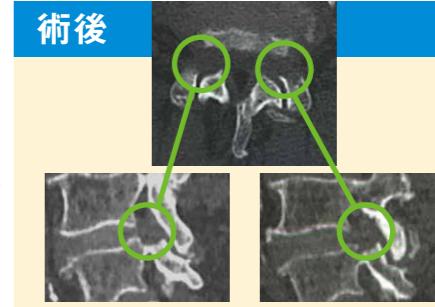
「おじいちゃん・おばあちゃんなんやけん、腰が痛いんは我慢せなしゃないでえ」。高齢者の方の腰痛症に、このような認識を持たれる方が少なからずいらっしゃるでしょう。ですが、これはもう時代遅れです。痛みこと、しんどいことを我慢する時代は終わりつつあります。高齢者だから、持病があるからと言って治療を諦める必要はありません。まずはかかりつけ医にご相談のうえ、専門医による治療をご検討ください。

術前



○…痛みの原因となっている骨

術後



○…処置により骨が取り除かれたことが分かる



内視鏡下手術のドリルには、骨を削るためのダイヤモンド粒子が使用されている。